

「伺って、とりあえず調査したい」と

去年7月の本紙で記事にしたけど、県内産の麦を採卵鶏に食べさせていいの、農水省や県庁に問い合わせたことがありました。行政のトンデモな対応にムカついていた、ちょうど同じ時期に、それとは無関係に県から電話がありました。

県北農林事務所というところからで、聞けば、環境保全型農業に取り組んでいる農家の調査をしたいのだとか。北茨城市では2軒のうちの1軒だとも。

そっかあ、苦節十年、ようやく県庁のお役人サマも、うちの有機農業を認知してくださったかと感涙におせび…たかったけど、その前に、ちょっと確かめたい。

ご承知のとおり、東電の原発事故で放射能をふりまかれてしまって、そんな農地で有機農業をすすめるのに、何か参考になるような調査なんでしょうか。

「いえ今回の調査は、いっさい放射能の問題は考慮しておりません」

はあ〜!? なんじゃそりゃ? つい、キレてしまいました。冒頭に書いたような精神状態が伏線にあったと、いちおう言い訳しておこうかな。

原発事故から何ヶ月も過ぎているのに、放射能を考慮しないで環境保全型農業の何を調べるというのか。そんな調査のための調査だったら、お互い時間のムダでしょう。面積や農法や、この電話で概略は説明してさしあげます。来ていただく必要はありません!

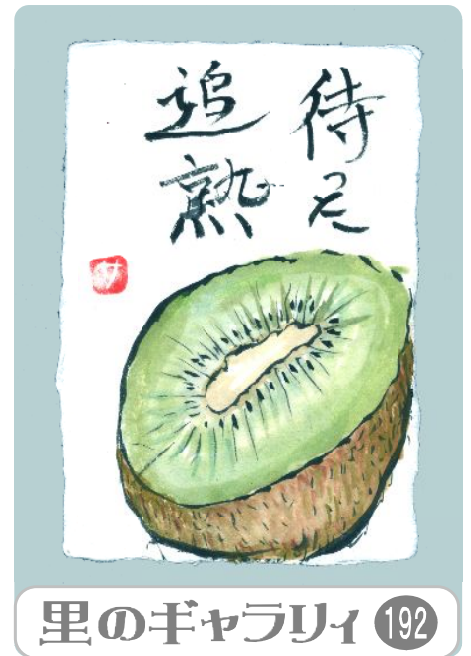
なかばケンカ腰で電話を切りました。

*

たまたま翌日、十王町で大規模に有機農業に取り組んでいる知人と会って、その話をしました。そしたら、

「ああ、うちにも来てるよ。補助金をくれるって話だろ」

「ちょ、ちょっと待ってよ。そんなカネのことなんか一言もなかったぞ。とりあえ



ず調査にうかがいたいなんて言うから、「とりあえず」につきあうほどヒマじゃありませんって、ガチャ切りしちやっただよ

「たしか1反歩あたり8千円かな」

「そしたら、20数万円もらいそこなったってことかあ。先にカネの話をしてくれれば、怒鳴りつけたりしなかったのに」

ま、後の祭りです。カネに目が眩んで右往左往するのは見苦しい。と、開き直るしかないけど、逃がした獲物は小さくなかったなあ(^^;

(後日談があります。それも、いずれ…)

「茨城県原子力安全対策委員会」の傍聴席から見た光景



茨城県の原子力安全対策委員会とやらを傍聴してきました。周辺100万人の命や暮らしを左右するという緊迫感はまだで漂ってない会議でした。

いまだ安全神話にひたりきっているような写真の居眠りセンセイが、過去に書いた文章を見つけたので、下に貼りつけておきます。空に向けて唾を吐いているような、示唆に富むお説教です。

一見何の問題もなく、互いに関係のないような事象(決定)が積み重なり、こうした事象の連鎖がやがて後戻りできない(point of inevitability)までに肥大化して大惨事になるといってよく、安全の世界ではよく知られたことである。JCO事故もまさにその典型であるといっておく、1999年9月30日に突然降って湧いたような事故ではなく、長い期間をかけて周到に準備された事故であるといっておく。また、「規則破りを平気でやる邪悪な会社と楽ばかりしようとする怠惰な作業員が事故を起した」とか、「経済効率の優先が安全の軽視につながって起きた事故」といった素人理論で片付けてしまっただけの本質的教訓を引き出せない。……事故原因のいくつかは極めて些細な出来事に遡ることができる……

古田一雄「人的要素からみた事故の特性」『第40回原子力総合シンポジウム予稿集』